

学校吹奏楽の発展に至る経過と課題

—— 歴史的背景の分析から ——

0. 研究の動機と目的

[動機]

平成 14 年度から施行される新しい中学校の学習指導要領には音楽科の目標

「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う。」とある。

学校吹奏楽は音楽を媒介とする活動であるにも関わらず、なぜ学校音楽教育で目指すような教育活動に成り難いのか、という疑問。

学校吹奏楽の教育活動が広く認められるようになった背景を明らかにし、学校吹奏楽の課題とされる部分を導き出していきたい。

[目的]

- 1) 中学校及び高等学校における筆者の実践経験を通して、学校吹奏楽活動の現状から考察される新たな指導の視点を導き出す。
- 2) 新たな指導の視点に基づいた教材開発を行い、それを重ねて実践した結果、新しい指導の方法論を提示すること。

1. 吹奏楽の歴史的背景

(1) 西洋音楽における吹奏楽の歴史的側面

(2) 我が国における吹奏楽の歴史的側面

2. 音楽科授業における器楽教育の現状

(1) 西洋音楽史と戦後の我が国における器楽教育

(2) 器楽教育の今日的課題

(3) 器楽教育と学校吹奏楽

3. 学校吹奏楽の今日的課題と展望

(1) 学校吹奏楽の現状と課題

表1

全日本吹奏楽連盟 加盟団体数

コンクールに見られる技術優先
に偏った指導

多忙な出演回数

吹奏楽を愛好する生徒数の減少

年度\部門	小学校	中学校	高校	大学	職場	一般	合計
1994	1029	6338	3571	268	118	1293	12617
1995	1504	6396	3591	290	129	1387	12847
1998	1030	6585	3624	300	131	1588	13258
1999	1011	6611	3633	308	129	1647	13339

『すいそがく』No.131.149 (1996.2000 全日本吹奏楽連盟事務局)

指導者の力量に関わる問題

「サウンドの時代」

私は「良いサウンド」を、豊かな音色、正確なピッチとハーモニー、心地好いバランス、幅広いダイナミクス、深い音楽表現が一体となった創造物であると考えます。

人事異動に際して学校単位で定義する教育内容や教育力が大きく変化する

表2

京都府吹奏楽コンクール参加団体数

大編成

年度\部門	中学校	高校	大学	一般	合計
1994	55	43	7	12	117
1998	47	29	8	16	100

小編成及びB組

年度\部門	中学校	高校	大学	一般	合計
1994	42	22	1	0	65
1998	52	33	1	1	87

京都府吹奏楽コンクールパンフレット

実際に活動可能な範囲を見失った吹奏楽クラブ(コンサートバンドとマーチング、或いはビッグバンド等との並行した活動)

音楽表現活動のために効率的な教材の整備が必要である

(2) 学校吹奏楽の将来的展望

- 1) 指導者が音楽教育(器楽教育)である学校吹奏楽を正しく認識し、深い音楽の喜びを感得させられるよう、目標設定と教授法を明確化した指導を心掛ける。
- 2) 学校や地域の現状に即した活動内容を精選し、適切な計画を整備する。
- 3) 上記2)を整備した上で必要な演奏技術とともに、指導者が音楽表現活動を深化させ、生徒にその喜びを確実に感得させられるだけの高い見識を備える。
- 4) 余剰が生じた楽器については、学校間や地域で有効に活用できる環境を整える。
- 5) 今後は各地の優秀な専門家による教材が開発される必要がある。(私は本論の考察から最も必要とする内容として 深い音楽表現にピン・ポイントに絞り、学校吹奏楽の教育現場で取り組みやすい教材を研究・作成中である。)

引用・参考文献

柴田 南雄・遠山 一行 総監修『ニュー グローヴ 世界音楽大事典』(1995) 講談社

野村 幸治 中山 裕一郎『音楽教育を読む』(1998) 音楽之友社

沢崎 真彦 他『季刊 音楽教育研究』7/72 No.75(1972) 音楽之友社

秋山 紀夫 『吹奏楽指導全集』第1巻 吹奏楽の魅力(1988) 同朋舎

箕輪 響 『吹奏楽指導全集』第5巻 合奏の指導と指揮法(1988) 同朋舎

稲垣 征夫 『吹奏楽指導全集』第7巻 吹奏楽指導資料集(1989) 同朋舎

門馬 直美 『現代吹奏楽体系』(1984) 東芝EMI

赤松 文治 『新版吹奏楽講座』第6巻 指導と運営(1983) 音楽之友社

赤松 文治 『新版吹奏楽講座』第7巻 吹奏楽の編成と歴史(1983) 音楽之友社

秋山 龍英 『日本の洋楽百年史』(1966) 第一法規出版

岩淵 龍太郎 『音楽科基礎指導法』第7巻[器楽]第1章 器楽教育の目的と目標(1982) 音楽之友社

木村 信之 『昭和戦後 音楽教育史』(1993) 音楽之友社

諸井 三郎 他 『音楽教育研究』12/'66 No.8(1966) 音楽之友社

垣内 幸夫 木村 信之 『季刊 音楽教育研究』368(1983) 音楽之友社

熊田 為宏 『演奏のための楽曲分析法』(1974) 音楽之友社

文部省 『進む学習指導要領』<http://www.monbu.go.jp/series/00000052/1999>)

保科 洋 『生きた音楽表現へのアプローチ』(1998) 音楽之友社

国安 洋 『音楽美学入門』(1998) 春秋社

小澤 俊朗 『吹奏楽小事典』(1994) 音楽之友社

平松 久司 『京都府吹奏楽連盟30周年記念史』(1985) 京都府吹奏楽連盟

平島 達司 『ゼロ・ビートの再発見』(1983) 東京音楽社

瀬 浩明 吹奏楽のための『バッハコラール集』Vol.1(1997) アンサー音楽教材出版

Hugo Riemann 伊庭 孝 訳 『音楽美学』(1954) 音楽之友社